

視点

「SDGs(持続可能な開発目標)」を「存じの方も多

需要の増加とともに飼料も増産されていますが、過度な農地開発は森林破壊につなが



前橋市関根町

社会課題の解決に役

フューチャーノート社長

桜井 蓮

「飢餓をゼロに」という指標があります。世界では10億人が飢餓に直面しています。さらに現在も、発展途上国を中心に人口は増加し、経済が豊かになるにつれ食の西洋化(肉食化)が起こり、早ければ10年以内にタンパク質の需要が供給を上回るタンパク質危機が起こると言われています。そこで、既存の畜肉に比べ、少ない餌で生産できる食用昆虫が代替たんぱく源として期待されています。昆虫食は今後起こるタンパク質不足を解決する可能性を秘めているのです。

り、温室効果ガスの吸収量を減らす要因にもなっています。一方、昆虫食製品の中でも認知度を獲得している食用コオロギは、1キの生産に必

告書によれば、牛肉の場合、1キの食肉を生産するのに約25キの飼料が必要とされています。食肉の

要な飼料は牛肉の約10分の1で済み、飼料を節約できることで栽培に要する農地の節約になります。その結果、森林を保全することにつながるのです。

「働きがいも経済成長も」という目標との関係性を、タイ東北部のコオロギ農家の事例から紹介したいと思えます。この地域は農業が主な産業ですが、土地が痩せていてなかなか収穫量を増やすことができません。そのため若者は都市部に出稼ぎに行かなければならず、人口減少が大きな問題になっています。そんな中、コオロギは老若男女問わず誰でも飼育できるため、農家の副業・副収入として養殖農業が期待されています。昆虫食需要が高まることで、国内の消費だけでなく国外への輸出が増え、農家の副収入となっているようです。

先日も、パシフィコ横浜で開催された展示会に出展し、弊社のメンバーが展示会セミナーの中で「昆虫食とSDGs」をテーマにお話をさせていただきました。多くの企業に立ち寄っていただき、昆虫原料がSDGsの側面からも注目されていることを実感しました。持続可能な社会の実現に貢献するため、この昆虫原料の普及に一層力を入れていきたいと思えます。

昆虫食とSDGs

【略歴】高崎経済大発ベンチャーで、昆虫食品を手掛けるフューチャーノート社長。起業は同大在学中で、現在は同大学院在学。新潟県出身。佐渡高一同大卒。

2021.06.02. 上毛新聞 投稿欄

ホームページでも見られます。アドレスは <http://www.jomo-news.co.jp/>